

会 告

一般社団法人 日本集中治療医学会
理事長 氏家 良人
広報委員会
委員長 橋本 悟

日本集中治療医学会では従来からインターネットを利用した通信手段を活用しておりましたが、今般、オンライン会員名簿システムを導入することとなり、今後さらに利用が拡大すると予想されます。それに伴い関連するトラブル発生も予想されますので、2011年12月16日開催の理事会において以下の申し合わせ事項を定め、対応することとなりました。本学会におけるインターネットの適正な利用のために、会員各位はこの申し合わせ事項を遵守されるよう周知願います。

インターネット利用に関する申し合わせ事項

第1項 インターネット利用全般に関する申し合わせ

1. 学会員のインターネット利用に関して申し立てがあった場合には、広報委員会で審議し理事会に諮る。
2. 処分の対象となり得る場合は、定款第16条に従う。

第2項 メール利用に関する申し合わせ

1. 本学会が運用するメーリングリスト(以下ML)およびメールマガジン(以下MM)の登録は、すべて事務局管理の下に行われる。本学会会員以外のMLへの参加は原則的に認めない。ただし研究協力者など、理事会で認める場合にはこの限りでない。当分、自発的なオンライン登録は許可しない。
2. 発信者は必ず、氏名・所属などを明らかにする。私的な内容、守秘性の高い内容の投稿は許可しない。
3. MLの内容を他に転送する場合は必ず発信者およびML全体に了承を得る。
4. ML投稿に際して一定限度内の大きさのファイルを添付できるが、可能な限りテキスト本文のみの投稿を推奨する。またテキスト引用も最小限度に留め、メールソフトの設定において送信をHTML(hyper text markup language)形式ではなく、テキスト形式とする。
5. MMは会員全体、医師部門全体、看護部門全体を対象とした形態などが考えられるが、いずれも事務局(理事長)が発信元となり、学会からの声明、ニュース、広報などをMM登録会員宛に発送する。これらのメールには返信はできない。MMの内容については、広報委員会で審議し理事会(持ち回り理事会を含む)の決裁を得て発信する。

第3項 オンライン会員システムに関する申し合わせ

1. 個人情報保護の観点からオンライン会員システム内容は公開しない。データ保全のために、常に2箇所以上でバックアップを行う。各地方会は当該地方会に属する本学会会員の基礎データのみ、学会事務局から受け取ることができる。本学会に関連する事項で郵送などに必要な個人情報を得たい場合には、理事会の承諾を得た後に、印刷された宛名ラベルを受け取ることができる。
2. オンライン名簿管理システムを利用してアンケート調査を行う場合は、学会の契約するアンケートシステムに限って利用することができる。アンケート調査内容は事前に各関連委員および会理事会の承認を得る必要がある。得られたデータはすべて学会に帰属する。

付 則 この申し合わせ事項は、2012年5月19日から施行する。

公 示

第 43 回学術集会会長（副会長）選出の件

定款第 22 条第 1 項、学術集会会長および副会長選出に関する細則に従い、本学会第 40 回学術集会会長の任期満了による第 43 回学術集会会長の選挙を第 40 回学術集会時に開催される社員総会（評議員会）にて行います。第 43 回学術集会会長に選出された者は第 40 回学術集会終了の翌日より、第 42 回学術集会終了日までは副会長となります。候補者となることを希望する者は、所定の届け出用紙を用いて、評議員 5 名以上の推薦状を添えて、2012 年（平成 24 年）10 月 31 日（当日消印有効）までに学会事務局まで簡易書留にて届け出て下さい。

なお、届け出用紙は評議員及び常任委員（有権者）に開示致しますので御了承下さい。

候補者となることを希望する者は、書留として返信用封筒を同封し書留便にて学会事務局まで届け出用紙を請求して下さい。

2012 年 7 月 1 日

一般社団法人 日本集中治療医学会
理 事 長 氏 家 良 人

日本集中治療医学会
優秀論文賞の募集について

2012年度日本集中治療医学会優秀論文賞の授賞候補論文の募集を行います。
今年度は学術集会会期の関係上2012年10月31日(必着)までに学会事務局に申請下さい。
尚、応募用紙は日本集中治療医学会事務局までFAX(03-3815-0585)にて御請求下さい。

2012年7月1日

日本集中治療医学会
理事長 氏家 良人

優秀論文賞選出内規

第1条 目的

日本集中治療医学会優秀論文賞（本賞・奨励賞）を設け、集中治療医学の発展に寄与する。

第2条 対象

- 1) 筆頭著者が日本集中治療医学会会員であること。
- 2) 対象論文は、本学会総会の前々年10月から前年11月の間に本学会機関誌に掲載、あるいは本学会学術集会において発表後権威ある学術誌に掲載された原著論文とする。

第3条 選考委員会

選考委員会は次の構成とし、理事会の議を経て理事長が委嘱する。選考委員会は学術集会会長が委員長となり選考を行う。

1. 本会会長、前会長ならびに前前会長
2. 機関誌編集委員会より1名
3. 評議員より4名

委員の任期は、2.は3年、3.は1年とする。

第4条 募集方法

- 1) 選考委員長は年1回、候補論文の募集を行う。自薦または他薦による。
- 2) 候補論文は別に定める優秀論文賞選考の申し合わせ事項に従い公募する。
- 3) 機関誌編集委員会は候補論文を推薦できる。

第5条 選考方法

- 1) 選考委員会は別に定める優秀論文賞選考の申し合わせ事項に従って最終候補論文を選出する。
- 2) 受賞論文は理事会の議を経て決定する。
- 3) 受賞論文は年3編以内とする。

第6条 受賞

賞状ならびに賞金を本学会年次総会において会長より授与する。賞金額は、当面本賞1件20万円、奨励賞1件10万円とする。

第7条 受賞者は、同年度の学術集会において該当論文内容を報告しなければならない。

第8条 基金

第13回天羽会長よりの寄付金を基金とし、その他寄付金を受け付ける。基金の管理運用は理事長が行う。

付 則

この内規は、1986年3月1日から施行する。

この改定は、2001年5月18日から施行する。

この改定は、2002年1月11日から施行する。

この改定は、2003年5月1日から施行する。

この改定は、2004年3月5日から施行する。

(ただし、理事長に関する事項は2005年2月23日から施行する。)

この改定は、2005年12月22日から施行する。

会 告

第40回日本集中治療医学会学術集会（第3報）

第40回日本集中治療医学会学術集会

会 長 岡元 和文

学会幹事 新田 憲市(医師部門)

下村 陽子(看護部門)

菊池 紀敏(臨床工学技士部門)

〒390-8621 長野県松本市旭3-1-1

信州大学医学部

救急集中治療医学講座

テ ー マ： 原点から未来へ！アルプスの麓で集中治療を学ぶ

会 期： 2013年2月28日(木)～3月2日(土)

理事会と評議員会は2月27日(水)ホテル プエナビスタにて行います。

会 場： 長野県松本文化会館，松本市総合体育館，まつもと市民芸術館，松本市浅間温泉文化センター（計14会場）

演 題 申 込： 2012年7月4日(水)午前～8月22日(水)12：00 正午までです。一般演題は学術集会ホームページ上でのオンライン受付のみとします。

最 新 情 報： ホームページ「第40回日本集中治療医学会学術集会 <http://www.convention.co.jp/40icm/>」をご覧ください。

<学術集会概要>

第40回学術集会という節目の年であることを意識して，会長講演，特別講演，招請講演，教育講演，シンポジウム，パネルディスカッションなど以外に，イノベーション講演，Pro-Con デイバート，English sessionなどを計画しています。

会場を選択し易いように会場毎にテーマを決めました。学術集会の概要につきましては2012年5月末時点での予定企画情報を掲載しております。プログラム名や講演者は変更になる可能性があります。

1. 集中治療のプログレスを知る会場①(2,000席)

- 1) 会長講演 40周年記念：集中治療—原点から未来へ—
- 2) シンポジウム 原点から未来へ—21世紀の集中治療はどうあるべきか—(案)
- 3) 特別講演 イノベーション(1) 高頻度振動換気の開発(案)
- 4) 特別講演 急性血液浄化療法の過去，現在，未来(案)
- 5) シンポジウム 重症敗血症の集中治療はどうあるべきか(案)
- 6) 特別講演 人工呼吸法—40年の歩み—(案)
- 7) シンポジウム ALI/ARDSに対するプロの呼吸管理(案)
- 8) 特別講演 脳障害の病態と脳蘇生法(案)
- 9) シンポジウム 脳蘇生法—プロの脳神経管理—(案)
- 10) 特別講演 循環器集中治療—40年の歩み—(案)
- 11) シンポジウム 21世紀の循環器集中治療—プロの循環管理—(案)

2. 集中治療のプログレスを知る会場 ② (750席)

- 1) 特別講演 重症患者の栄養管理 —40年の歩み— (案)
- 2) シンポジウム 重症患者の栄養管理 —栄養管理プロの技— (案)
- 3) 特別講演 イノベーション (2) 補助循環の開発 (案)
- 4) 招請講演 重症患者の凝固線溶系の病態と治療 (案)
- 5) シンポジウム 重症患者の凝固線溶系 —プロの管理— (案)
- 6) 特別講演 新生児集中治療 —40年の歩み— (案)
- 7) シンポジウム 小児集中治療の最前線 —PICUにおける治療の最前線を俯瞰する— (案)
- 8) 特別講演 プロの集中治療医は重症患者の予後を改善する！ (案)
- 9) パネルディスカッション 21世紀の集中治療は誰が担うべきか？ (案)

3. Pro-Con ディベート会場 (250席)

- 1) 重症呼吸不全には体外式肺補助 (ECLA, ECMO) を用いる？
- 2) Septic shock 患者には PMX 治療を行う？
- 3) ARDS には小一回換気量 (6 ml/kg) のボリュームコントロール換気を行う？
- 4) 中心静脈/肺動脈カテーテルは重症患者管理に有用である？
- 5) 心拍再開後脳障害に対して低体温療法は必要か？
- 6) 栄養管理に中心静脈栄養法は不要である？
- 7) 人工呼吸離脱には自然呼吸トライアル (SBT) を用いる？
- 8) 手術前の抗生物質投与のガイドラインは有用である？
- 9) DIC 治療は基礎疾患の治療で十分である？
- 10) ICU の人工呼吸管理において一日一回の鎮静中断は不可欠である？
- 11) ICU は初期研修医が手技を行う格好の場である？
- 12) Rapid response team (RRT) は院内急変対応に有用である？
- 13) 急性呼吸不全患者の気管挿管には筋弛緩剤を使用する？
- 14) 外科的気管切開および経皮的気管切開は集中治療医が術者を行う？
- 15) プロカルシトニンは抗菌薬の使用決定に有用である？
- 16) CRRT の non-renal indication は意味がある？
- 17) 重症肺炎にはステロイドを使用する？
- 18) Closed-ICU は ICU 患者管理に有用である？
- 19) 重症急性膵炎には早期経腸栄養を行う？
- 20) 重症 ARDS には APRV を使用する？
- 21) Intensive insulin therapy は有害である？

4. Learning Topics in Intensive Care Medicine (150席)

- 1) Special lecture Therapeutic hypothermia in cardio-cerebral resuscitation (案)
- 2) Special lecture Rapid response system for the 21st century (案)
- 3) Special lecture Pediatric sepsis: What's different from adult? (案)
- 4) Special lecture What is the ARDS? (案)
- 5) Special lecture Patient-ventilator interaction (案)
- 6) Special lecture New concept of ventilator-associated complications (案)
- 7) Special lecture New therapy for sepsis: molecular biological approach (案)
- 8) Special lecture Metabolic management of critically-ill patients (案)
- 9) Special lecture Transportation of critically-ill patients (案)
- 10) Special lecture Ventilator-associated pneumonia: Professional approach! (案)
- 11) Special lecture Coagulopathy in critically-ill patients: New approach! (案)
- 12) その他準備中

5. 集中治療のトピックスを学ぶ会場(150席)

- 1) 教育講演 エビデンスからみた心肺蘇生法(案)
- 2) 教育講演 メディエータ除去のための急性血液浄化療法(案)
- 3) 招請講演 ARDS肺線維化のメカニズム(案)
- 4) 教育講演 プロカルシトニンは何を意味するか?(案)
- 5) 教育講演 痛みのメカニズム(案)
- 6) 教育講演 重症心不全に対する薬物療法 ―プロの技―(案)
- 7) 招請講演 小児重症患者の栄養管理とその特殊性(案)
- 8) 教育講演 分子生物学的観点からみた脳蘇生・脳保護(案)
- 9) 教育講演 細菌感染症に対する免疫療法(案)
- 10) 招請講演 拡張型心筋症に対する免疫吸着療法(案)
- 11) 教育講演 重症患者におけるheart-lung interaction(案)
- 12) 教育講演 Post-cardiac arrest syndrome の最新の管理(案)
- 13) 教育講演 重症患者と自律神経活動(案)
- 14) 新生児・小児集中治療委員会報告
- 15) 集中治療教育プログラム改訂委員会報告
- 16) わが国における集中治療に携わる医師の労働力実態調査報告
- 17) その他準備中

6. 専門医セミナー会場(500席)

- 1) 教育講演 重症不整脈の治療指針(案)
- 2) 教育講演 ICUベッドサイドでの心エコー検査の見方(案)
- 3) 教育講演 ガイドラインにみる感染性心内膜炎の治療(案)
- 4) 教育講演 ガイドラインに基づく院内感染対策(案)
- 5) 教育講演 Acute kidney injuryのICU管理(案)
- 6) 教育講演 危機的な徐脈性不整脈の管理(案)
- 7) 教育講演 重症患者の輸液管理はどうあるべきか(案)
- 8) 教育講演 敗血症性ショックの全身管理(案)
- 9) その他準備中

7. ME集中治療をディベートする会場(150席)

準備中

8. 展示・ポスター会場・40周年写真展(体育館)

準備中

9. 優秀演題発表の会場(150席)

準備中

10. 集中治療チームの会場(600席)

- 1) 特別講演 Extracorporeal lung assist: State-of-the-art(案)
- 2) パネルディスカッション 体外式肺補助(ECLA, ECMO)の安全管理(案)
- 3) 特別講演 事故事例から学ぶ医療ガスの安全管理
- 4) パネルディスカッション 集中治療室での医療ガスのトラブルを克服する
- 5) その他準備中

11. 集中ケアのプログレスを知る会場(1,300席)

- 1) 特別講演 21世紀の鎮痛・鎮静(案)
- 2) シンポジウム 鎮痛・鎮静プロトコルはどうあるべきか(案)
- 3) 特別講演 ケアのための“音楽運動療法”(案)

- 4) 特別講演 早期リハビリテーションは予後を改善する(案)
- 5) シンポジウム 救急集中治療領域におけるリハビリテーションの新しい在りかた(案)
- 6) 特別講演 プロの呼吸器ケア(案)
- 7) シンポジウム プロの呼吸器ケアはどうあるべきか(案)
- 8) 特別講演 子どもたちを放射能から守るために(案)
- 9) 特別講演 米国におけるターミナルケア(案)
- 10) 特別講演 集中治療における看護師の役割拡大の意義(案)
- 11) シンポジウム 集中治療における看護師の役割拡大は必要か?(案)
- 12) その他準備中

12. 集中ケアをディベートする会場(290席)

- 1) 特別講演 集中ケア看護の原点(案)
- 2) シンポジウム 21世紀の集中ケア看護はどうあるべきか(案)
- 3) 特別講演 ICUにおける感染管理(案)
- 4) パネルディスカッション ICUでの感染をいかに防ぐか(案)
- 5) 特別講演 人工呼吸器関連肺炎(VAP)バンドル普及のために(案)
- 6) 集中ケア認定看護師会共同企画(準備中)
- 7) 特別講演 ターミナルケア(案)
- 8) シンポジウム ターミナルケア(案)
- 9) その他準備中

13. 1年間勉強しなかった人のために！ 集中ケア基本セミナー会場(150席)

準備中

14. よりよく深く学ぶ人のために！ 集中ケア専門セミナー会場(350席)

準備中

アルプスの麓の松本は水と空気が美味しい美しい街です(『神様のカルテ』の舞台)。近くには、安曇野(『おひさま』の舞台)、浅間温泉、美ヶ原温泉、扉温泉など以外に、少し足を延ばすと夜間スキーが楽しめる白馬、御神渡りで有名な諏訪湖、『黒部の太陽』で有名な大町温泉郷、別所温泉などがあります(詳しくは次頁の日本旅行松本支店にお問い合わせの上、早めにお申し込み下さい)。信州の2月末～3月初旬は快晴が多く、北アルプスなどの風景写真を撮るのに最高の季節ですので、カメラをお持ち下さい。学術集会に加えて、信州の温泉や夜間スキーもお楽しみ下さい。第40回学術集会へのご応募をお待ちしております。

<演題申込>

演題申込はインターネット経由による応募のみといたしました。応募された演題の著作権は、日本集中治療医学会に帰属し、ホームページ上に掲載され、全文検索の対象となりますのでご了承下さい。

注意：ヒトを対象とした研究発表では、ヘルシンキ宣言(2000年10月、エジンバラ)に基づき、所属機関の倫理委員会の承認を得て行った研究を発表して下さい。また、症例報告では、患者のプライバシー保護のため、患者が特定できるような表現はご遠慮下さい。日本集中治療医学会ホームページ掲載の「集中治療領域における研究ならびに利益相反(COI)マネジメントに関する指針」ならびに「同施行細則」に従って、開示する義務のあるCOI状態があれば、学会抄録あるいは発表スライド・ポスター等において自己申告して下さい。

演題の応募者は、発表者、共同発表者にかかわらず、日本集中治療医学会の会員に限ります。未入会の方は**必ず入会手続きをお願いいたします。**

なお、入会手続きにつきましては、本会ホームページ(<http://www.jsicm.org/>)の「入会案内」をご参照いただくか、または、送付先の住所、氏名を記載した返信用封筒(80円切手貼付)を同封し、入会申込書必要部数を明記して下記までご請求下さい。

請求先：〒113-0033 東京都文京区本郷3-32-6 ハイヴ本郷3F
日本集中治療医学会事務局
TEL：03-3815-0589

■応募アクセス方法

第40回日本集中治療医学会学術集会のホームページ(<http://www.convention.co.jp/40icm/>)にアクセスし、演題応募ページの要領に従って必要事項を入力し、送信して下さい。

■演題応募受付期間

2012年7月4日(水)午前～8月22日(水)12:00正午まで

■連絡先

第40回日本集中治療医学会学術集会の運営に関するお問い合わせは、日本集中治療医学会事務局ではなく、下記の学術集会事務局宛にお願いします。

1. 第40回学術集会信州大学準備室
信州大学医学部救急集中治療医学講座内
〒390-8621 長野県松本市旭3-1-1
TEL：0263-37-3018
FAX：0263-37-3028
E-mail：40icm@shinshu-u.ac.jp
担当秘書：北條, 金澤
2. 第40回学術集会運営準備室
日本コンベンションサービス株式会社
〒100-0013 東京都千代田区霞が関1-4-2 大同霞が関ビル18階
TEL：03-3508-1214
FAX：03-3508-1302
E-mail：40icm@convention.co.jp
担当：野上
3. 宿泊・交通問合せ先
日本旅行松本支店
TEL：0263-34-5555
FAX：0263-35-3925
E-mail：shindai_igakubu@nta.co.jp